

自己評価票

(個別表)

【事業者名称】(株)ナガオカ

グループホーム悠愛

20年10月30日評価実施

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
I-1. 理念と共有					
1	1	☒ ①地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自立と尊厳を貴重として、認知症高齢者が地域の中でその人らしい暮らしが出来る様にケアに取り組んでいる。		
2	2	☒ ②理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ会議において、個々のケースについてのカンファレンスを行い、その人らしさについて、常に検討している。		
3		☒ ③家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議において、苑の利用者が地域にお手伝い出来る事はないか？また、交流の場はないか？常に検討している。		
理念と共有 3項目中 3項目					
I-2. 地域との支え合い					
4		☒ ①隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の子供達に自由に庭を利用してもらい、声掛け等を行っている。		
5	3	☒ ②地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(地域歌声喫茶)に月1回参加している。	○	老人会や自治会の参加を検討中である。
6		☐ ③事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		○	運営推進会議において、地域の方々と共に何か出来る事、職員が参加参加させて頂ける事が無いか検討中である。
地域とのつきあい 3項目中 2項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		I-3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	4	☒ ①評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み、認識付けを行っている。去年の改善に取り組む意欲も持っている。		
8	5	☒ ②運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、前回よりの利用者の状態や活動内容を報告し、意見を頂いている。また今後取り組みたい内容等を提案し、意見を頂いている。		
9	6	☒ ③市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所だけでは、思案に困った時等を市担当者に意見を求めている。		
10		☒ ④権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現状では対象となる人はいないが、研修会があれば、個々に参加している。		
11		☒ ⑤虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体虐待や言葉による虐待が苑内で起きない様に常にケア現場では気を配っている。その様な場面の報告があれば、すぐにスタッフ会議において問題の経緯を話し合い、対処している。また、御家族様に報告している。		
理念を実践するための制度の理解と活用 5項目中 5項目					
		I-4. 理念を実践するための体制			
12		☒ ①契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明には解りやすく、解らない点については再度、確認を取りながら進めている。		
13		☒ ②運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お一人お一人居室にて苦情やご意見等お聞きしている。また、普段の関りの中で何についても話せる人間関係を築ける様に目指している。		
14	7	☒ ③家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	苑での暮らし方、ご様子は毎月の「御家族だより」にて報告している。金銭管理の収支報告も一緒に報告している。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	8	☒ ④運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の支払い時、面会時、家族会等に御家族様と話し合う機会をもっている。気さくに話して頂ける様に関係作りを大切にしている。		
16		☒ ⑤運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議において職場の環境については意見交換を行っている。仕事、職員同士の人間関係などは個別に関っている。		
17		☒ ⑥柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	現在職員体制が厳しく、なかなか柔軟な対応に苦戦している。	○	収支を見直し、職員体制を手厚くしたいと考えている。
18	9	☒ ⑦職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は出来るだけ少なくしている。離職に関しては、理由等を聞き運営者として回避できる様にしているが、現在の所難しい現実がある。	○	職員のメンタルケアに取り組んでいきたい。
理念を実践するための体制 7項目中 7項目					
Iー5. 人材の育成と支援					
19	10	☒ ①職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には「認知症新任研修」の参加、現職員にはそれぞれのステップに応じて研修に参加を指せている。職場内研修が出来ていない。	○	法人全体での段階別定期的研修に取り組んで行きたい。
20	11	☒ ②同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会で意見交換や悩みの相談を行っている。	○	外部研修への参加しやすい職員体制の見直しを行っている。
21		☒ ③職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	現在実施出来ていない。	○	数日以上以上の休暇が取れる体制にして行きたい。
22		☐ ④向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況は把握しているが、個々の評価まで達していない。	○	今後法人共通の評価システムに取り組みたいと考えている。
人材の育成と支援 4項目中 3項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
Ⅱ-1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		☒ ①初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者が置かれている環境、諸事情に関し客観的に傾聴し、求めているニーズを正しく判断できる様に努めている。		
24		☒ ②初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族様が困っている内容や介護に関する不安、環境的な問題、また、利用者と御家族様の思いの違いにも耳を傾け傾聴する姿勢で臨んでいる。		
25		☒ ③初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報、観察を基にアセスメントを行い、他のサービスの利用も検討したいと思っている。今の所、他のサービスの利用はない。		
26	12	☒ ④馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には、まず、苑の方にお寄り頂き、おやつや食事を共にして頂いて苑の利用者と交流して頂いている。また希望に応じて体験入所も行っている。		
相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4項目中 4項目					
Ⅱ-2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	☒ ①本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事等を共に行う事によって、人生の先輩からのアドバイスを頂きながら介護させて頂いている。		
28		☒ ②本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	苑での状況は随時、御家族様に報告させて頂き、その都度、一緒に考え、アドバイスを頂き、共に共有している。		
29		☒ ③本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	個々の悩み、問題は苑で解決の付く範囲であれば対処している。御家族様に協力が必要な場合は相談し対処している。利用者の問題は御家族様を含め解決している。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30		☒ ④馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れな いよう、支援に努めている	入所前の馴染みの方には御家族様にお願い し面会等で関係を保っている。場所に関し ては希望時、訪問出来る様に御家族様との話し 合いを持っている。		
31		☒ ⑤利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関 わり合い、支え合えるように努めている	普段の行事の参加の折、孤立しない様に努 めている。お手伝いは協力関係がないと成り 立たないので、出来る限り参加を促している。		
32		☒ ⑥関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者 や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された利用者に関しては移動された 施設等の訪問をして様子を伺ったりしてい る。御家族様には付き合いは持っていな い。		
新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 6項目中 6項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
Ⅲ-1. 一人ひとりの把握					
33	14	☒ ①思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人希望と言っても自立やADL低下に繋がる暮らし方は御家族様と話し合いの結果、決めさせて頂いている。自分らしい暮らし方は基本としている。		
34		☒ ②これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接時、聞き取れなかった事情に関しては面会時や御家族様に改めてお聞きしている。(問題発生時は特に)		
35		☒ ③暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その日の心身状況は午前、午後ともにバイタル、状態観察にて把握している。ふらつきや痛み等に関して何時頃から？その前後の様子を検討している。場合によっては早めに受診をしている。		
一人ひとりの把握 3項目中 3項目					
Ⅲ-2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	☒ ①チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	何が悩みか、如何してほしいか等、利用者に話を聞き、御家族様と検討し担当者との協議の上、ケアプランに反映している。		
37	16	☒ ②現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プランの見直しや新たな問題がないか等は担当者と話し合いを行っている。問題と思われる事情に関して原因を探り、本人、家族共に話し合いを持ち、本人に負担が掛らない様にプランに反映させている。		
38		☐ ③個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録帳に一日の様子を記録している。細かく、正確に書く。その日の様子で気になる情報は引継ぎノートにて継続している。		
介護計画の作成と見直し 3項目中 2項目					
Ⅲ-3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	☒ ①事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの利用以外でのサービス利用が必要な場合は見当したい。今の所、ない。		
多機能性を活かした柔軟な支援 1項目中 1項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		Ⅲ-4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40		☐ ①地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	帰宅願望が強く、何回か苑外に単独外出し警察に捜索を依頼した事がある。地域の方や消防に事前をお願いする必要性を痛感している。ボランティアは不足している。	○	ボランティアの活用を考えていきたい。
41		☐ ②他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今の所、他の介護事業者は利用していない。		
42		☐ ③地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は地域包括支援センターとの共働は行っていない。しかし、新しい利用者の募集に関して支援を仰いでいる。		
43	18	☒ ④かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前のかかりつけ医との関係を大切にし、苑の協力医との関係を構築している。		
44		☒ ⑤認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医が認知症専門医では無いため、地域の専門医に定期的に受信している。		
45		☐ ⑥看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師は不在。職員間の話し合いの結果、対応出来ない場合は主治医との連携の元で指示を仰いでいる。	○	訪問看護、居宅療養管理の受け入れの検討を行いたい。
46		☒ ⑦早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中の状況は御家族様より情報を頂いたり、場合によっては様子を伺いに出向いたりして情報交換している。		
47	19	☐ ⑧重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	90歳を超える利用者が4人おり、中でも食事量が極端に減った利用者に関してのみ御家族様や協力医との話し合いを行った。今は食事量も増え安心範囲となった。	○	家族と共にターミナルケアについて取り組んで行きたい。

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48		☐ ⑨重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルに向けての職員の教育、対応の仕方等の研鑽、看護師の要請等、課題は沢山ある。出来る事から少しずつ進めている。	○	家族会での検討課題である。何回も話し合いを行っていきたい。
49		☒ ⑩住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	身体状況の変化に伴い環境を変える事への不安は計り知れない。ダメージを少しでも軽減できる様に関係者間で情報交換し、不安の解消に努めている。		
地域資源との協働 10項目中 4項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
		IV-1. その人らしい暮らしの支援			
		IV-1. (1) 一人ひとりの尊重			
50	20	☒ ①プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている	記録に関しては職員間のみ共有している。その方に解る言葉掛けに努めている。ゆっくり、はっきり、やさしく、にっこり、話かける。		
51		☒ ②利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	発する言葉の意味、サインをしっかりと受け止められる様に努めている。説得より、納得に重きを置いてケア出来るように努めている。		
52	21	☒ ③日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	苑内を自由に動き回ったり、その人らしい過ごし方を見守っている。		
その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重 3項目中 3項目					
		IV-1. (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53		☒ ①身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に一度、移動散髪を利用している。一人の男性のみ御家族様にお問い合わせの理容室を利用している。		
54	22	☒ ②食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや後片付けは職員と一緒にしている。		
55		☒ ③本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物に関しては個人の希望に添ってお出している。酒やタバコは吞んでいない。		
56		☒ ④気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンをつかみ、声掛けにてトイレ誘導している。清拭、オウシュレットを使用して清潔を保持している。		
57	23	☒ ⑤入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則、本人の希望としている。体調不良の場合は職員が本人と話し合いで決めさせて頂いている。風呂の温度は個人に合わせている。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58		☒ ⑥安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間不眠、昼寝(体調的に必要)の方に関しては職員が声掛けをして休んで頂いている。日差しを遮る工夫、室温に気を付けている。		
その人らしい暮らしの支援 (2)基本的な生活の支援 6項目中 6項目					
IV-1. (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	☒ ①役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手伝いや趣味の編み物、絵を描いたり、歌を楽しんだりと個々での楽しみ方があったり、全員で合唱したり、風船バレーを楽しんだりしている。		
60		☒ ②お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く時は、財布から自分で出してもらったりしている。		
61	25	☒ ③日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	紅葉見学やさくら見学等、季節の移り替わりを目や耳や肌で感じて頂ける様に行事として取り組んでいる。		
62		☐ ④普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別に駅から電車に乗り、目的地までお出かけした。本人は満足しておられた。近場の外出は苑の職員の対応でいいが、遠距離になると御家族様の協力が必要である。希望時、対応している。		
63		☒ ⑤電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には対応している。また、御家族様にも了解を取っている。場合によっては御家族様より、電話を掛けて頂いている。		
64		☒ ⑥家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に制限していない。何時でも対応できる様にしている。また、面会の際は出来るだけ、他の利用者の事も考え、居室にて頂いている。		
その人らしい暮らしの支援 (3)社会的な生活の支援 6項目中 5項目					
IV-1. (4) 安心と安全を支える支援					
65		☒ ①身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等を通じ理解している。また、薬の使用に関しても何度も受診をし、医師に相談の上に使用している。		

自己評価項目	外部評価項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	26	☒ ②鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はせず、自由に出られる環境に配慮している。外出時は職員が必ず一緒に付き添い行動を見守らせて頂いている。		
67		☒ ③利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認は目視で行い、さりげない見守りを行っている。		
68		☒ ④注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	転倒の危険性がある物などに関しては他の利用者に迷惑が掛らない程度に取り除いている。はさみや包丁はしっかりと管理している。		
69		☒ ⑤事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒアリハット、事故報告書の記録、また、そのことに関しての話し合いを行い、再発防止に努めている。。		
70		☐ ⑥急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	平成18年に救命救急を苑内で行っている。その後は定期的には行っていない。	○	一年に一回は実施したい。
71	27	☐ ⑦災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	検討中である。		
72		☒ ⑧リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	歩行、食事等、ふらつきや誤嚥などの可能性のある方に関しては御家族様に連絡をしている。出来るだけ残存能力を生かしたケアを目指している。		
その人らしい暮らしの支援 (4)安心と安全を支える支援 8項目中 6項目					
IV-1. (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		☒ ①体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	午前、午後、二回の血圧測定と普段の様子観察を行い、異常があれば、協力医の小串医院に受診をしている。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74		☒ ②服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期受診は御家族様をお願いしている。その際、苑での様子を記録した受診記録を発行し、主治医との連携に努めている。当然、服薬に関しても把握している。		
75		☒ ③便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	芋、牛乳、などを使用している。、なるべく薬に頼らない様にはしているが、致し方ない時もある。硬い便の時は浣腸や敵便にて便を出す時もある。	○	食物や薬に頼るばかりではなく、体操や体を動かす働きかけも行っていきたい。
76		☒ ④口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯は毎日、ポリデントしている。歯磨きは毎食後、行っている。		
77	28	☒ ⑤栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量(食事)は個人によって差があり、水分量は一日、1000ccは取って頂く様にしている。		
78		☒ ⑥感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザに関しては予防接種を毎年、行っている。ノロウイルスに対しても対応が出来る様にしている。		
79		☒ ⑦食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	フキンやまな板は毎日、ハイターで消毒している。ナリコマの食材は冷蔵庫や冷凍庫に保管している。		
その人らしい暮らしの支援 (5)健康面の支援 7項目中 7項目					
		IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
		IV-2. (1) 居心地のよい環境づくり			
80		☒ ①安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口は面会者、来客からも、見通しが良く、陰、日向がなく透明のガラス張りの入口にしてある。日光が入る事によって明るく、温もりも感じて頂ける玄関となっている。玄関先には季節感のある花を花瓶に飾っている。		
81	29	☒ ②居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓の無いトイレには飾り窓を作ったりして工夫している。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82		☒ ③共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内では畳、ソファのスペースを取ってテレビを観覧して頂いたり、また、廊下にもソファを置いてゆっくりくつろいで頂ける工夫をしている。		
83	30	☒ ④居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より使い慣れた物、家具等、使用しやすいように個人の物を使って頂いている。居室の方にも、思い出の物や写真が飾られている。		
84		☒ ⑤換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い日には天窓、ホールの窓を開けて空気の入れ替えをしている。冷暖房の温度調整にはなるべく外から入ってくる風を利用し冷暖房に頼らない様になっている。		
生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり 5項目中 5項目					
IV-2. (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		☒ ①身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室等に手すりの設置やブザー、椅子を置いた工夫をしている。		
86		☒ ②わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	場所(トイレ、居室)等には名札を付けて、解りやすく、また、見やすい様に時計などは目の高さに設置している。		
87		☒ ③建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホール横から外にも行ける様になっており、天気の良い日は日光欲をしたりして楽しんでいる。畑も作っている。	○	夏場のベランダは日差しが強く、レースのカーテンや厚手のカーテンで日差しを遮っているが、ホールが暗くなるので、日よけ等の工夫も考えている。
生活環境づくり (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 3項目中 3項目					

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
		↓○印欄
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
		↓ ○印欄
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症高齢者との関りの中で自立と尊厳（その人らしく暮らす）を最も大切にし、安心のある、満足感のある、明るい楽しい苑生活の実現に向けたケアに取り組んでいます。

健康面、精神面においては専門家との連携を蜜に相談、援助を行い、利用者が”何でも話せる”環境や人間関係、信頼関係を深めていける様に努めています。共に喜び、共に泣き、共に助け合いの暮らしを目指しています。

評価結果整理表

個 別 表		□のチェック項目数
I 理念に基づく運営		
－1.	☐ 理念と共有	3 項目/3項目
－2.	☐ 地域との支え合い	2 項目/3項目
－3.	☐ 理念を実践するための制度の理解と活用	5 項目/5項目
－4.	☐ 理念を実践するための体制	7 項目/7項目
－5.	☐ 人材の育成と支援	3 項目/4項目
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		
－1.	☐ 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4 項目/4項目
－2.	☐ 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6 項目/6項目
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		
－1.	☐ 一人ひとりの把握	3 項目/3項目
－2.	☐ 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2 項目/3項目
－3.	☐ 多機能性を活かした柔軟な支援	1 項目/1項目
－4.	☐ 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	4 項目/10項目
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		
IV－1. その人らしい暮らしの支援		
－1. (1)	☐ 一人ひとりの尊重	3 項目/3項目
－1. (2)	☐ その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (3)	☐ その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援	5 項目/6項目
－1. (4)	☐ 安心と安全を支える支援	6 項目/8項目
－1. (5)	☐ その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援	7 項目/7項目
IV－2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		
－2. (1)	☐ 居心地のよい環境づくり	5 項目/5項目
－2. (2)	☐ 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり	3 項目/3項目

総 合 評 価

I 理念に基づく運営（ ☐ 項目／5項目）について

管理者、職員は自立と尊厳を大切に個別にその人らしい暮らしが何か？に付いてスタッフ会議において検討し、話し合い行っている。また、運営推進会議において、グループホームの果たす役割や地域の中で自分達が「何か」お役に立てることは無いか等の話し合いを行っている。また、地域に根付いているところまでは行かないが少しずつ前向きに進めている。特別視されるのではなく、ノーマライゼーションの実現に向けて1歩1歩、地域に浸透していきたい。

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 ☐ 項目／2項目）について

日常の様々な出来事を通し、共に共感し、共に助け合う大切さを痛感しています。悩みや相談事は1対1で、本人の居室で本人が話しやすい様に普段からの人間関係をしっかりと持てるように努力しています。なかなか、本心からの訴えが難しい時もありますが、普段の関りの中で本人が出しているサインや何気ない言葉の意味を見逃さないように努めています。また、御家族様と家族会や面会時に個別にお話しをしたり、情報交換を行ってより良い関係の継続を深めて行きたいと思っています。

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント ☐ 項目／4項目）について

一人、一人の持っている価値観を認め合い、慣れ親しんだライフスタイルを大切に、古くからの生活習慣を継続できる様に支援出来たらと思っています。出来なくなっていく事柄に関して、はさり気ない見守りや声掛け、不安を安心に変えるにはどうしたらよいか？利用者、御家族様、職員で話し合い、情報交換しながら、その方を支えられたらと思っています。また、ターミナルに関しての準備を利用者、御家族様、職員を含む、すべての関係者で取り組んで行きたいと思っています。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 ☐ 項目／7項目）について

日常生活において、今までの生活の持続に努めると共に、この先、認知症の進行に伴い起こりうる様々な諸問題等に冷静に対処していきたいと思っています。最近、地震や災害により、多くの高齢者の方々の痛ましい事故を耳にする度に苑においても1年に1度は救命救急の定期的な指導と災害に関する情報収集や避難訓練の実施に取り組みたいと思っています。

V サービスの成果に関する項目について

4年目を迎え、職員、ひとり、一人がその方(利用者)を良く知り、その方に寄り添い、お互いが助け合う関係が出来上がるまでの道のりは長いようで短い関係にある事を感じます。一生懸命の姿が通じることもあり、いい加減さが信頼を壊す事の恐ろしさも感じます。その方の残された人生と一緒に考え、一緒に過ごす事の重責はかけがいが無い程に尊い事ですが、反対に失敗の出来ない事柄で、「これで、いいのか？」と自問の連続です。ケアプランの難しさが個々にあります。利用者、御家族様と本音で語り合え、サービスの向上に関してのご意見やご希望を頂き、職員並びに苑の質の向上に向けて努力していきたいと思っています。

★サービスの質の向上に向けて、取り組む課題と優先順位、具体的な行動の計画

事業者名称

グループホーム悠愛

評価年月日： 年 月 日

前回評価年月日： 年 月 日

サービスの質の向上に向け取り組む課題			取り組み期間 (○年○月～ ○年○月まで)	改善に向けた具体的 な行動	達成度評価	次期 評価 実施 時期
評価項目 番号	優先 順位	内 容				
70	1	急変時や事故発生の備え	H20、12／1 ～H21、11／ 30	消防署による救命救 急研修の実施。		
71	2	災害対策	H20、12／1 ～H21、11／ 30	災害時の近隣よりの 支援を得る為の関係 作り。 防災マニュアルの作 成 避難訓練の実施。		
45	3	看護職との協働	H20、12／1～ H21、11／30	訪問看護ステーショ ンとの連携、		
47	4	重度化や終末期に向けた 方針の共有	H20、12／1 ～H21、11／ 30	家族会開催。(協議 内容)		

